

## 特集—植調 50 周年に寄せて—(続き)

先月号(48巻9号)の「特集—植調 50 周年に寄せて—」に、以下の方々よりご寄稿をいただきながら掲載しておりませんでした。当方の手違いによるもので、誠に申し訳ありません。改めて掲載するとともに、慎んでお詫び申し上げます。(編集部)

### 植調 50 周年にあたって

牛口良夫

50 周年を迎えるにあたり、原稿執筆の依頼を受け過去の思い出についてつらつらと思い起こしてみた。

やはり最も思い出深いのは、1 キロ剤やジャンボ剤の開発が始まった頃である。この頃は私が最初に除草剤の開発に携わった時期でもあり、営業上がりで除草剤の開発など右も左もわからなかった時期である。1 キロ剤の製剤検討にも難しさを感じながら次なるテーマとしてジャンボ剤の開発提案をうけ、研究所の製剤担当と喧々譁々した日々が懐かしく思い出される。現在では1 キロ剤もジャンボ剤も当たり前の製剤であり、この間の技術革新は目を見張るものがある。植調創立後半世紀を迎え、今後の半世紀さらなる技術革新・進化を目指し共に歩み続けたいと考えている。

(協友アグリ(株)開発部)

### 植調 50 周年の思い出

岡本憲一

私が開発担当として植調協会へ頻繁に通い始めたのは平成8年頃からで、水田除草剤では、ジャンボ剤ならびにSU 含有一発処理剤の本格開発が最盛期を迎えようとする時代でした。モリネート剤開発の御縁から、中期ジャンボ剤の提案を頂戴し、関係者に御指導頂きながら製剤試作と植調試験を繰り返し、登録・上市を目指して、苦労しつつ開発を続けたことが懐かしく思い出されます。

また、この時代は重点課題が多く、検討会の中だけでは議論が尽くせないこともあり、懇親会も関係機関の方々との貴重な情報交換の場となっていて、これも楽しみの一つでした。この時の経験が、ピラクロニル剤開発にも繋がったものと御礼申し上げる次第です。(元協友アグリ(株))

### 30 年前の植調試験成績検討会の思い出

徐 錫元

植調協会に出入りするようになって早や30年が過ぎ、青年だった私もシルバーとなり、新たな場所にいます。植調協会との最初の関わりは、ヘキスト在職中(研究所時代)の1983年の冬の成績検討会でした。あの頃の成績検討会はメーカー数・参加者数が多く、座席確保も大変でした。前におられる錚々たる先生方の議論や、その先生方とやりあう、これまた錚々たるメーカー担当者との議論は、若い自分にとって有意義で大いに勉強になりました。1990年代後半になると、メーカー間の合併や買収が進み、メーカー数は減り、これに伴い参加者も少なくなりました。昔を知る者にとっては少し寂しい気がしますが、熱い議論が交わされているのは今も変わらないと思います。これからも時代の流れを感じます!

(協友アグリ(株)普及・マーケティング部)

### 鴻巣研究所の思い出

原 猛機

当時、私は長野市の弊社研究所で除草剤の開発を担当しておりましたが、弊社のMC-79の導入がきっかけとなり、1972年と記憶しておりますが、本剤の作用性等の試験のため、研修を兼ねて鴻巣研究所で数ヶ月間お世話になりました。

当時の研究所員は少人数で、小沢室長、則武さん、泉さん、浅野さん、西原さん、竹下さん達が昼夜お仕事をされていたことが思い出されます。私も温室の一角をお借りし、ご指導を受けながら除草剤の様々な試験法の勉強をさせて頂きました。

当時の仕事関係の記憶は大変薄れておりますが、作業後に時々(?)皆さんと麻雀を楽しんだ記憶は今でも鮮明に残っています。私にとって42年前の鴻巣研究所での貴重な研修の思い出です。

(元協友アグリ(株))